

監査委員の決算審査・財政健全化審査意見(要約)

○ 審査に付された一般会計、特別会計及び上水道事業会計の歳入歳出決算書・歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は法令に準拠して作成されており、決算計数は関係帳簿及び証拠書類と照合した結果、誤りないものと認められた。又、各基金の運用状況を示す書類の計数についても、関係諸帳簿及び証拠書類と符合しており、誤りのないものと認められた。

平成23年度は、前年度末に発生した東日本大震災の大混乱の中でスタートした。災害対策本部で試算した概算被害総額は47億円(23.7・19現在)と想像を絶する巨額なものであった。インフラ関係施設の被害も大きく深刻な状況に陥った。行政側としても町民の最低限の生活を確保するため町内の関連事業者の協力のもと不眠不休の復旧対応に当たった。この対応の結果、町民の生活にも僅かではあるが落ち着きを取り戻すことが出来た。対応に当たられた関係者の皆様に深く感謝しあげたい。

この様な混乱の中、今般の地震を起因とした福島第一原子力発電所の事故が発生、放射線汚染という世界的にも稀な非常事態が加わった。当町はもとより我が国にとっても歴史人類を見ない苦難の年度であったと言える。

このような状況で推移した平成23年度の決算結果は、これら震災及び原発事故の復旧関係費に多額を投入せざるを得ず、歳入額、歳出額とも過去最高の数字となった。

幸い国側等の特別措置による補助があることから財源の確保には懸念がないとみられる。従って、当町の財政構造への影響はある程度あるにせよ財政悪化等懸念する事態には至らないと判断する。今般の大災害に対し、各方面から暖かい義援金が寄せられ本町へも多額の配分がなされ貴重な復興財源となった。支援下さった皆様に厚く御礼を申しあげたい。

今までに経験したことのない大災害は町民の生活を一変させた。復興に係る期間は今後、数年単位の長きに亘るものと推測される。官民一体となった復興努力を続け、第5次総合計画の基本理念である「かわる かがやく、牧場の朝のまち かがみいし」の実現に向け歩み続けることを願う。

○ 審査に付された下記、健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められる。

代表監査委員 根本 次男
監査委員 木原 秀男

9月定例会から



編集後記

10月17日鳥見山体育館において鏡石町制施行50周年記念式典が知事、国会議員、県議会議員、近隣市町村長など沢山の来賓を迎え、盛大に開催されました。

村から町となり半世紀、この間町は大きな変化を遂げましたが更に、50年先どのような町を作っていくのか町民・議会・町執行が大いに議論を深め合い、50年先の町民から大いに評価されるようにしたいものです。東日本大震災の復旧に追われる毎日ですが、未来を考える時間も持ちたいと思う50周年記念式典でした。

発行責任者

議長 渡辺 定己

広報編集委員会

委員長 円谷 寛
副委員長 菊地 洋
委員 長田 守弘
委員 井土川好高
委員 大河原正雄
委員 木原 秀男

財政健全化判断比率

(単位：%)

| | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 早期健全化基準 |
|----------|--------|--------|--------|---------|
| 実質赤字比率 | — | — | — | 15.0 |
| 連結実質赤字比率 | — | — | — | 20.0 |
| 実質公債費比率 | 20.7 | 19.6 | 18.5 | 25.0 |
| 将来負担比率 | 139.4 | 160.2 | 119.2 | 350.0 |

主要財政分析指標

(単位：%)

| | 平成22年度 | 平成23年度 |
|--------|--------|--------|
| 財政力指数 | 0.581 | 0.556 |
| 経常収支比率 | 78.9 | 82.9 |
| 公債費比率 | 16.6 | 14.5 |



記念式典には多数の方が出席

50周年記念式典

10月17日(水)午前10時から鳥見山体育館において町制施行50周年記念式典が開催されました。式典アトラクションでは、これからの鏡石の50年を『背負う』中学生らが“どっこいしょ”と、よさこい踊りを披露。牧場の朝のまちづくりを『背負う』頼もしい舞でした。

No.146
平成24年11月
発行 福島県鏡石町議会
編集 議会広報編集委員会
〒96-0001 福島県鏡石町鏡石
電話0248(62)2110
印刷 前永山印刷

未来の鏡石を背負う中学生がよさこい踊りを披露
かがみいし
議会だより